

中野北溟記念 北の書みらい賞 受賞者展

日本を代表する書家中野北溟氏の功績を記念し、40代以下の北海道在住書家の育成と支援を目的に創設した北の書みらい賞。第5回(2025年)受賞4作品と第4回(2024年)受賞者4人が制作した12作品を紹介します。

《出品書家》

- 第5回大賞 石原伸弥(幕別町)
第5回奨励賞 久保奈月(月形町)、杉村帰心(旭川市)
高嶋星那(帯広市)
第4回大賞 小室聡美(幕別町)
第4回奨励賞 池田憲亮(小樽市)、寺沢霞花(登別市)
中川佳奈(北見市)

2025年7月30日(水)~8月3日(日)
10時~18時(8月3日17時終了)

DO-BOX EAST

札幌市中央区大通東4丁目1番地 北海道新聞社ビル1階

主催／特定非営利活動法人北の書みらい基金 共催／北海道新聞社

ホームページ <http://www.kitanosho.jp/>

問い合わせ 道新文化事業社 011-241-5161

第5回中野北溟記念北の書みらい賞受賞作品

大賞(奨励金50万円)

「風神雷神」 石原伸弥



風神の息吹 我は狂颯並べて薙ぎ楽土が辻の淵と成らん 八雲ほろに踏みあだし
楽土が辻の源と成らん 雷神の拍動

182×546cm



石原伸弥 (いしはらしんや)

1987年生まれ、江別市出身。2016～23年陽光会書展5回開催。18年、19年、20年北海道書道展特選。21年石原三世代書道展、TOKACHI書、22年四書人師魯久窯に遊ぶ、22、23年アートな名前書道展出品。22～24年十勝支部陽光会3回開催。24年個展。陽光会十勝支部長、創玄書道会審査会員、毎日書道展会友、北海道書道展会友。白樺学園高等学校講師。幕別町在住。

受賞の言葉

この度は、大賞という輝かしい賞を頂戴し誠に光栄に思います。

受賞作は俵屋宗達筆「風神雷神図屏風」の世界を一度私自身の内面に沈め、それを解き放ち昇華させたものになります。今この瞬間を生きる私だからこそ表現できる軌跡を残したい、その想いを具象化できたのではないかと感じています。

師である中野北溟先生、祖父石原清雅(故)、そして父石原北陽の書に対する無限の情熱を感じ、これからもこの歩みを止めることなく、日々精進していきます。

奨励賞(奨励金各20万円)

「心-heart of mine-」 久保奈月



90×220cm



久保奈月 (くぼなつき)

1984年生まれ、共和町出身。7歳から依頼作家佐藤瑞鳳氏に師事。2014年アメリカ・シカゴへのレジデンスを機に5回渡米、ギャラリー・在シカゴ日本総領事館内・CBREビルロビー等でグループ展や企画展に参加。20年から25年まで大丸札幌店で毎年個展。22年「ツキガタアートヴィレッジ」を立ち上げ、アートを通じて月形の魅力を発信している。25年木田金次郎美術館に作品收藏。月形町在住。

受賞の言葉

この度は名誉ある賞を頂き、心より嬉しく思います。

『心』という文字を何度も書き重ね、ようやく辿り着いた一枚に、自身の思いを込めました。「書は心なり」の言葉を胸に、支えて下さる皆様への感謝の気持ちを忘れず、これからも自分なりの書の表現で向き合ってまいります。

「永遠(ランボー詩)」 杉村帰心



117×117cm



杉村帰心

(すぎむらきしん)

1975年生まれ、旭川市出身。2023年毎日書道展毎日賞。24年北玄12人展出品。北海道書道展会友、創玄書道会審査会員。旭川永嶺高等学校教諭。旭川市在住。

魂よ もう一度探し出したぞ 何を
永遠を それは太陽と番った海だ

受賞の言葉

この度は、奨励賞という大変名誉ある賞をいただき、ありがとうございます。

現在私は、旭川永嶺高校に勤めています。書道の授業や部活動の指導を通して、生徒達の新鮮で曇りのない書に向かう姿勢に私も大いに刺激を受けています。私も高校生達に負けずに純粋な気持ちで作品に向かいたいという気持ちはありますが、まだまだ、技術も感性も未熟で思うような作品を書くことはできません。今後も自分なりに書き続けたいと思っています。この度はありがとうございました。

「翔」 高嶋星那



137×70cm



高嶋星那 (たかしま せいな)

2005年生まれ、帯広市出身。24年国際高校生選抜書展(書の甲子園)優秀賞。帯広柏葉高等学校書道部。現在、静岡文化芸術大学デザイン学部在学。

受賞の言葉

この度はこのような素晴らしい賞をいただき、誠にありがとうございます。入選の知らせをいただいたときは、本当に驚くと同時に、嬉しさと胸がいっぱいになりました。

高校時代、書道部で過ごした時間は、私にとって大切な思い出です。高校から書道を始め、さまざまな表現を学び、日頃から親身に指導して下さる先生、共に頑張る書道部のみんなのおかげで、書道を楽しみながら自分の書の表現を見つけていくことができました。

これからも書の経験を通して、自分らしい表現を探し続けていきたいと思えます。

本当にありがとうございました。

第5回選考会推薦作品出品者 (50音順、在住地は2025年2月現在)

入船心太郎(占冠村)、梅津康寿(北広島市)、岡村果鈴(函館市)、押上万希子(滝川市)、佐久間唯(札幌市)、高橋陽子(清水町)、棚田優花(増毛町)、土井一剛(札幌市)、土井伸盈(札幌市)、永井雪陽(登別市)、宮崎杏(倶知安町)、山田このみ(旭川市)

第5回中野北溟記念北の書みらい賞審査講評

5年目の節目を迎えた本賞の審査において、一部の受賞作を除き、最も票が割れた審査会となった。回を重ねることで受賞者の数が増え、次第に評価が分散する傾向が現れてきたとも考えられるが、事はそう単純ではないだろう。ただ作品の評価が拮抗することは、5年目を迎えた本賞への期待の高まりとも無縁とは言えず、喜ばしい結果と受け止めたい。

書の世界における伝統や形式を守りつつも、一方でそれを打ち破ろうとする書家たちの苦闘する姿も感じられた審査となった。結果的には、新しい表現形式や表現意欲が強い作品が受賞に至ったが、このような結果は、5年を経て本賞が、書の世界に影響力を持ち始めたことも意味しているのかもしれない。

選考委員長 佐藤幸宏氏(札幌芸術の森美術館館長)

今年で第5回目を迎えた通称「北溟記念賞」は、例年とは異なり、大賞は審査員5名の第1回目投票において、全員一致で、石原伸弥さんの大作、六曲一隻の「風神雷神」に決定しました。

書の表現は通常、白い用紙と墨の黒で表現しています。しかし、大賞作品は、ほぼ黒く見える濃紺の地に、白色で風神を、金色で雷神を色分けをするという、見事な逆転の発想と、更には、全体の美的完成度が高い作品でした。

表現は作者が自由な発想で制作するものです。俵屋宗達の国宝「風神雷神図屏風」も金地に描かれています。石原伸弥さんが伝統に対する深い敬意を礎にしつつ、独自の解釈を加え、雄渾と斬新な表現で再構築した点も、私は高く評価し、大賞に選定いたしました。

また、奨励賞においては、4回の投票を経て3名の受賞者に決定しましたが、その中の1人高嶋星那さんが19歳とわかり、とてもうれしく思いました。今後の成長と飛躍に大いなる期待を寄せております。

選考委員 阿部典英氏(美術家・北海道文化団体協議会名誉会長)

この賞の選考にあたる上で大事な点は、「書作」における書表現の多様性と未来性について深く考察し、語り合うことだと考えています。造形作品の評価では「一過性の斬新さ」に惑わされない事が肝要です。ただ、今を生きる作家たちにとっての課題は独自性にありますから、従来の作品を打ち消すべく、いつも懸命に創意工夫の努力をされている事でしょう。選考のポイントは、これら両極の葛藤の中にあるはず。「書作」である以上、成立するための前提条件や枠組みを無闇に否定はできません。今回の大賞となった作品は、筆で文字(言葉)を書いたものであり、墨や紙を用いていない前衛書ですから「書」特有の線質で書かれているかが問われました。今後も「書作」表現の中で、未来を担う作品を探って参りたいと思いました。

選考委員 笠嶋忠幸氏(出光美術館上席学芸員)

本年の選考会のキーワードは「冒険」でした。大賞受賞作の『風神雷神』や、奨励賞のひとつ『翔』には、支持体の変更や溶剤の工夫など、技法上の冒険がありました。伝統を踏まえつつも、新しいことに挑戦したいと燃える心を感じました。とはいえ「紙に墨で書く」伝統的な書に挑戦状を突きつけるような試みは、ある意味では個展向き。公募展を主な発表の場としている諸氏には、ややハードルが高いかもしれません。しかし、技法は古典的でも「何をどう書くか」、つまり表現上の冒険の余地があることは言うまでもありません。「お、これは…」と選考委員を絶句させるような、異彩を放つ表現に出会うことを心待ちにしています。

選考委員 古家昌伸氏(編集者・アトラクター)

気迫のこもった作品が多く、北の書の未来に思いを馳せることができる選考会でした。

大賞《風神雷神》は運筆の疾走感と、音楽性や絵画性を盛り込んだ構成に、今を生きる書家の「生」のベクトルを感じました。奨励賞《心》は己の精神と向き合い、課題に対峙する真摯な姿勢に爽快感を覚えた作。《永遠》は情熱を制御して枯淡と清新の趣を内包した作。《翔》は制作の工夫や楽しさが伝わり、見る者に想像の翼を与える表現が印象的でした。

4月に開室した中野北溟記念室では、北溟氏が書いた《愛》のイメージが訪れる人を迎えています。制作に悩む時は、書の無限の可能性に気づかせてくれる北溟氏の作品に、ぜひ会いに行ってみてください。

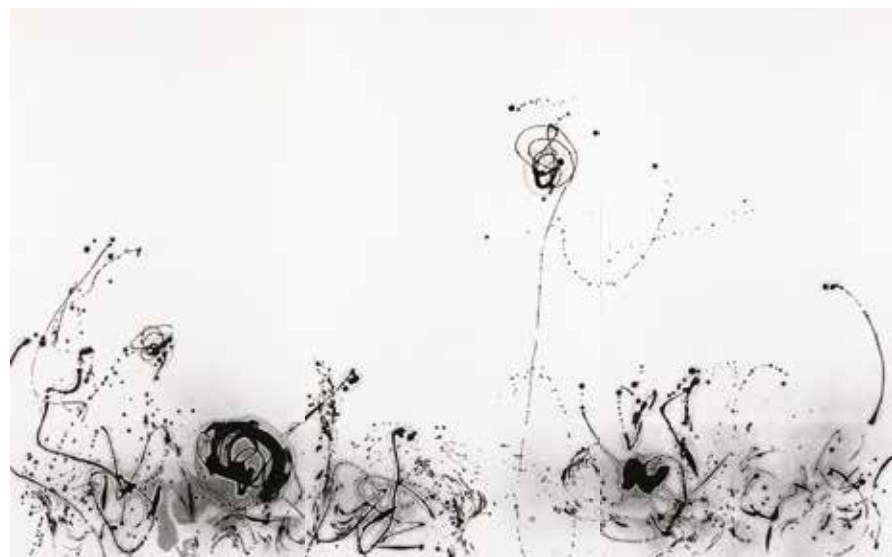
選考委員 齊藤千鶴子氏(北海道立釧路芸術館学芸主幹)



左から古家氏、齊藤氏、阿部氏、佐藤氏、笠嶋氏、北の書みらい基金村田正敏理事長。2025年6月18日、北海道新聞社DO-BOX EAST

第4回中野北溟記念北の書みらい賞受賞者の作品

小室聡美



Blossom ~いのち~

180×270cm



Requiem

140×140cm



軌跡 ~歩~

120×120cm



小室聡美 (こむろ さとみ)

1985年生まれ、音更町出身。2008年、16年奎星展奎星賞、17年毎日書道展秀作、21年、22年、24年北海道書道展秀作、22年宇野雪村賞全国書道展奎星賞、十勝文化団体協議会文化新賞(書・舞踊)。23年「第54回おびひろ菊まつり『書と音楽のインプロビゼーション(即興)』ライブ揮毫」。24年 十勝文化団体協議会文化奨励賞他。奎星会無鑑査会員、毎日書道展会友。幕別町在住。

池田憲亮



雲龍風虎
(「易経」乾卦)

180×194cm



獲我心
(「詩経」邶風・緑衣)

240×90cm



一原九糸の句
黒揚羽舞う洞窟の金網に

97×180cm



池田憲亮 (いけだ けんりょう)

1984年生まれ、小樽市出身。2011年大東文化大学大学院 書道学専攻修了。16年、22年毎日書道展毎日賞。17年、23年北玄12人展出品。23年小樽文化奨励賞。25年創玄展準大賞。現在 毎日書道展会員、創玄書道会二科審査会員、北海道書道展会友、書道研究隊牛社主宰。小樽市在住。

寺沢霞花



湯神

100×180cm



麗

160×90cm



馳

140×140cm



寺沢霞花 (てらさわ さんか)

1980年生まれ、登別市出身。2016年、19年国際現代書道展会友賞、17年、18年北海道書道展特選。国際現代書道展会員、北海道書道展会友。2003年苫小牧市立緑陵中学校勤務、13年から中国天津市に在住、登別市立登別小学校勤務。墨生書道学院所属。登別市在住。

中川佳奈



聖戦

(女王蜂「聖戦」より)

90×177cm



跳べる情熱

(児島令子の言葉より)

119×119cm



あなたの温もりが...

あなたの温もりが 世界の輪郭になる
(最果タヒ「額縁の詩」より)

115×84cm



中川佳奈 (なかがわ かな)

1995年生まれ、夕張市出身。2015年北海道書道展特選。23年創玄現代書展入選。北海道書道展会友。北見市在住。



中野北溟氏

日本を代表する書家。毎日書道会最高顧問、創玄書道会最高顧問、日展会員、北海道書道連盟顧問、天竺社代表。札幌市在住。

1923年7月31日、北海道苫前郡焼尻村（現在の羽幌町）生まれ。北海道第三師範学校（現在の北海道教育大学旭川校卒業。豊富、稚内、旭川、札幌で教員を務めながら毎日書道展、北海道書道展などに出品し、審査会員として活躍する。

79年札幌市立札幌中学校校長を早期退職し、書に専念、海外でも作品を発表する。90年北海道新聞文化賞受賞、99年毎日芸術賞を岡井隆氏、河野多恵子氏、蜷川幸雄氏、高倉健氏らと受賞。2005年東京日本橋三越、09年北海道立近代美術館で個展開催。

長年、日展、毎日書道展、創玄展、現代の書 新春展など全国トップクラスの書展で作品を発表するとともに、北海道書道展、北海道書道連盟では理事長など役員を歴任し、北海道書道界の発展に寄与してきた。

中野氏は師の金子鷗亭氏からの上京の誘いを断わり、札幌で書活動が続けてきた。太平洋戦争中の一時期（久留米予備士官学校）を除き、北海道を離れることがなかった。スポーツの才能にも恵まれ、テニス選手として国体に出場している。

25年4月18日、札幌市教育文化会館に「中野北溟記念室」が開設された。「書の北溟記念室」（羽幌町中央公民館）に続き2か所目の常設展示施設となった。



「中野北溟記念室」オープニングセレモニー
2025年4月17日

©北海道新聞社

特定非営利活動法人 北の書みらい基金

設立趣旨

北海道は書道が盛んな地域です。近代詩文書の創始者金子鷗亭（松前町出身）や漢字書の桑原翠邦（帯広市出身）をはじめ、日展、毎日書道展、読売書法展など国内公募展で活躍する書家を輩出するとともに、多くの指導者が育ち、生涯教育の場として、多くの市民が書を学んできました。

近年、高齢化が進み、書道人口が減少していますが、高校生、大学生や卒業後も制作を続けている若い人たちは少なくありません。道内の高校や大学は統廃合や定員減により、書道教員の採用が少なくなっています。書道を学ぶ環境が低下するとともに、若い書家が書道を職業とする機会が失われてきています。こうした状況の中でも、道内外の書道公募展に作品を発表し、優秀な成績を収めている人たちが存在します。彼らを支援する必要があります。

また、北海道書道界の隆盛を築いてきた先人たちの活動を後世に伝えるために、作品調査や資料収集および保存を進めなければなりません。北海道の書道の足跡が歴史に埋もれてしまう可能性があります。公募展の作品集や新聞記事などの資料を調査し、デジタル化による保存が必要です。

このような状況の中で、書の道を目指す人たちを支援し、書道関連資料を保存し、北海道の書道文化の振興に寄与するために、市民の手で特定非営利活動法人を設立して、展開していこうとするものです。

設立 2019年3月7日

理事長 村田正敏

活動内容 1. 道内書道家の育成・支援事業
2. 道内書道関係資料および作品調査事業

ホームページ <http://www.kitanosho.jp/>

第5回中野北溟記念北の書みらい賞掲載記事 2025年

「北の書みらい賞 大賞に石原さん」北海道新聞6月19日

「石原さん（幕別）大賞」十勝毎日新聞6月26日

「北の書」大賞に石原さん 毎日新聞7月4日

受賞結果「第5回中野北溟記念 北の書みらい賞」美術の窓8月号

中野北溟記念 北の書みらい賞 受賞者一覧

- 第1回(2021年) 大賞 北川和彦(剣淵町)
奨励賞 入船心太朗(占冠村)、小林聖鳳(鹿追町)
天満谷貴之(函館市)
- 第2回(2022年) 大賞 磯波水鈴(函館市)
奨励賞 伊藤寒岳(留萌市)、井村航(松前町)
高橋柳泉(幕別町)、三浦亜友(札幌市)
- 第3回(2023年) 大賞 高橋竜平(札幌市)
奨励賞 赤間裕堂(音更町)、木柳不吟(旭川市)
栗本万由有(愛別町)
- 第4回(2024年) 大賞 小室聡美(幕別町)
奨励賞 池田憲亮(小樽市)、寺沢霰花(登別市)
中川佳奈(北見市)
- 第5回(2025年) 大賞 石原伸弥(幕別町)
奨励賞 久保奈月(月形町)、杉村帰心(旭川市)
高嶋星那(帯広市)

発行／特定非営利活動法人北の書みらい基金

印刷／中西印刷